

令和3年度 事務点検・評価報告書

目 次

◆ 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
◆ 評価委員の点検・評価	2
◆ 教育委員会の活動状況及び活動概要	7

【 学 校 教 育 課 】

◇ 道 徳 心 の 高 揚	10
◇ 豊 かな 心 の 育 成	11
◇ 確 かな 学 力 の 育 成	12
◇ 健 や かな 体 の 育 成	13
◇ 生 徒 指 導 体 制 の 確 立	14
◇ 安 全 教 育 の 推 進	15
◇ 坂 町 学 び の ア ン ケ ー ト 結 果	16

【 生 涯 学 習 課 】

○ 地 域 文 化 の 保 存 、 継 承	18
○ 生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実	19
○ 生涯スポーツの推進	20
○ ウオーキングの推進	21
○ 生涯学習施設の有効活用	22

教育委員会の点検・評価制度の概要

1 点検評価の趣旨

平成 20 年 4 月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに、公表することが義務付けられた。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 対象年度

令和 3 年度

3 点検・評価の対象事業

点検・評価の対象は、坂町長期総合計画並びに教育行政方針に準ずる各事業の経営目標を定め、各事業の取組等について点検・評価を行う。

4 点検評価の方法

点検評価は、各事業で評価指標等を設定し、次の評価基準に従って評価する。

区分	内 容
A	目標値：+10ポイント以上
B	目標値：+10ポイント未満・-10ポイントを超える
C	目標値：-10ポイント以下・-20ポイントを超える
D	目標値：-20ポイント以下

※ただし、事業によっては、別に評価基準を定める。

評価委員の点検・評価

はじめに

令和3年度の教育委員会事務点検・評価では、昨年度に引き続き、評価委員へのヒアリングを実施している。このヒアリングにおいて、評価委員は「4 点検評価の方法」について説明を受けるとともに、【令和3年度 点検評価票】について詳細な説明を受けて、質疑応答を行った。とりわけ、各点検評価票をめぐっては、「4 成果と課題・改善策」について率直な意見交換を行った。その際には、坂町の取り組む重要施策の成果が、現在のおかれた困難な状況を踏まえて実施された結果であり、その課題認識が示されているのか、また、それを受けて令和4年度に向けての改善策となっているのかといった点を大切に意見交換した。その際に、評価委員は、坂町の「現在のおかれた困難な状況」として、昨年度と同様、平成30年の西日本豪雨被害を踏まえた取組、及び新型コロナウイルス感染防止対策の進捗状況を踏まえた視座への配慮について強く意識した。

なお、「教育委員会事務自己点検・評価」の評価結果の妥当性及び改善策の有効性については、ヒアリングにおいて意見交換することを通して修正点を確認した。その結果、本報告書においては、これまで用いてきた評価指標である「B：評価は妥当である。」とともに「B：改善策は有効と考えられる。」以上となるように修正されていることを確認することができた。

評価指標

区分	評価の妥当性	改善策の有効性
A	評価は極めて妥当である。	改善策は極めて有効と考えられる。
B	評価は妥当である。	改善策は有効と考えられる。
C	評価は妥当とはいえない。	改善策は有効と考えられない。
D	評価は全く妥当といえない。	改善策は全く有効と考えられない。

(1) 「道徳心の高揚：『礼節』を基本とした教育の推進」について

昨年度に引き続き、令和3年度においても小学校・中学校ともに9割以上の肯定的な回答が維持されており、評価できる。『坂町道徳教育推進協議会』を中心とした『坂町礼節週間』への取組や『考え、議論する道徳』の授業改善を積極的に推進できている」ことを大切に、これまでの成果を継続できるよう、「今後も、坂町礼節週間や道徳参観日の開催、道徳ノート・学校通信等の取組を進め」、「1人一台のタブレットを活用した動画配信等」、コロナ禍にあっても、保護者・町民を巻き込む工夫を提案するなど、各小中学校と支える教育委員会事務局の当事者意識が嬉しい。今後も、児童生徒を主人公とした坂町独自の有効な手立ての特定・集中すべき取組について継続して取り組んでほしい。

(2) 「豊かな心の育成：郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」について

令和2年度に引き続き、令和3年度の取組でも、「新型コロナウイルスの影響で多くの地

域行事等が中止されたが、総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている」ことが報告されている。「今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、授業の改善・工夫に努め、さらに郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る」という課題については、令和3年度には「1人1台のタブレットを活用してペアで紹介動画を送信・相互評価を行う等工夫することができた」と報告されているように、着実な取組を今後も期待したい。コロナ禍での授業展開の困難な状況を克服するという学校の取組を支える教育委員会事務局の姿勢に大いに期待したい。

(3) 「確かな学力の育成：基礎的・基本的な知識・技能の定着」について

「確かな学力の育成」にあたっては、「児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行った成果」が指摘されている。さらなる高みを目指し、「個に応じたきめ細やかな指導を充実させることができ」、令和3年度における教育委員会としての取組支援（「小学校専科指導（理科）や学校間連携（英語、算数）、指導方法改善（算数）に係る加配」など）の成果が窺える。「確かな学力」を身に付ける主人公が児童生徒であることを尊重し、「主体的に学ぶ児童生徒を育成」する改善策となるよう支援の在り方を提案し、それに係る財政的な裏付けを確保できるように、首長部局により一層積極的にアピールしていただきたい。

(4) 「健やかな体の育成：体力・運動能力の向上」について

令和3年度においても、昨年度に引き続き『体力づくり改善計画』を活用した授業づくりや運動の日常化、部活動（中学校）の充実が、児童生徒の運動機会の増加や運動に対する意欲につながっている」ことが成果として述べられており評価できる。令和3年度に引き続き、令和4年度も「今後、1人1台のタブレット端末を活用し、自己目標の設定や記録への挑戦など、視覚化による意欲のさらなる向上に取り組み、体力・運動能力の向上を図る」とされる。また、「小学校教科担任制推進加配（体育：横浜小配置）を中心に、体力向上の取組を町内全校で共有」して、人的措置の継続に係る財政的な裏付けを確保できるよう首長部局により一層積極的にアピールし、今後の取組に大いに期待したい。

(5) 「生徒指導体制の確立：積極的生徒指導の充実」について

いじめ問題の未解決件数が昨年度に引き続き0件であることや、規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的回答が高い割合であるなかで、さらに割合が増加していることは評価できる。もっとも、「新型コロナウイルスの影響で学校行事等が中止となるなどを要因として不登校の児童生徒数の割合の増加は残念である。生徒指導の三機能を生かした予防的積極的な生徒指導の取組を期待し、「今後の感染状況を踏まえ」「可能な限り授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続」するため、引き続き教育委員会としての施策の展開の「見える化」に努め、「教員の働き方改革」とあわせて情報発信にも努め、

「児童生徒の健やかな学びを保障する」ことを大いに期待したい。

(6) 「安全教育の推進：防災教育の充実」について

「平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育の実施やハザードマップの作成、マイタイムラインを活用した取組により、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をした」ことを風化させないように今後も期待したい。また、「新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の影響」にもかかわらず「学校生活における感染予防対策等の取組が日常的な学びと」なっていることは、継続して児童生徒に自覚化できるように取り組んで欲しい。「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」（県）の指定事業を活用しての「防災教育」の推進に、児童生徒に自分事と捉え「自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力」を育成する視点が育つよう、研究推進リーダー教員を中心にした単元開発に期待するところである。それとともに、保護者・地域住民を巻き込んで「自助」と「共助」の精神を育む取組となるよう、教育委員会の「公助」の視点を検討することを期待したい。

(7) 「地域文化の保存、継承：坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成」について

新型コロナウイルスの影響で多くのイベントが中止されるなか、開催できたイベントのアンケート結果の肯定的回答割合は目標値を上回っている。一昨年度の取組における改善策において指摘されていた「新規参加者を増やす取組」「広く意見を求め設置できる場所等を再検討」などについても継続するとともに、コロナ禍で中止となった「小中学生と自主グループとの交流」の在り方や、Web配信や「Webでの開催や、対面での感染予防対策の徹底による開催」の在り方について、さらなる検討を期待したい。そして、そのなかでは、生涯学習者である町民を主人公にする視点が生かされることを期待したい。

(8) 「生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実：図書館サービスの向上」について

「新型コロナウイルスの影響」で図書館サービスについては、全国的に低調であり、坂町においても多くの事業の中止や閉館日数の増加など、本来の状況には届いていないことはやむを得ないと判断できる。そのようななかでも、「ネット予約サービスの利用が月平均100件を超えたことや、コロナ対策を取りつつ再開した「読み聞かせ講座」「折り紙体験」など、図書館と町民利用者を繋ぎ、図書館について広く情報発信できたことは評価したい。今後も入館者数の激減状況やコロナ禍による自粛ムードを払拭する取組に大いに期待したい。その際、これまでも指摘したが、図書館の活動が図書館に留まるのではなく、「学習機会の提供」における「講座内容」と連携して図書館情報を提供するなど、生涯学習者へのサービスも引き続き検討され、学校図書館とのネットワーク化を推進して「学校教育」において重点的に取り組んでいる「道徳心の高揚」や「郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進」の事業とも連携して展開していく視点も大切にしていきたい。

(9) 「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」について

新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされた事業も多いなかでも、「徹底した感染症予防対策や町独自の施設利用の制限を設定」など、消毒や三密等の感染対策を講じるなどして事業実施できた経験を踏まえ、今後も続くコロナ禍において、町民の健康を考えながら開催できる方法を模索し続けていくことを期待したい。「ホームページや公式 LINE 等により、スポーツイベントの開催案内を掲載するなど、積極的な情報発信」に努めることにも、大いに期待したい。その際、これまでも指摘したところであるが、西日本豪雨の被害のなか、町民を勇気づける取組に取り組んだ経験を生かし、今後も事業充実に努めて生涯スポーツの推進の施策が、坂町の保健・医療・福祉など、他部局とも結びれて展開されることを期待したい。

(10) 「ウォーキングの推進：『坂町悠々健康ウォーキング大会』の充実」について

坂町の「生涯スポーツの推進：生涯スポーツ社会の実現」という中期・短期経営目標にあって、令和2年度から特色ある事業として、経営目標に挙げられており、坂町といえど「ウォーキング」を印象づけるものと評価できる。残念ながら、大会は2年続けて「新型コロナウイルスの影響」で中止となったが、令和3年度においても開催中止に至るまでの過程で検討してきた「取組・方策」を踏まえて、「ウォーキング大会の開催の在り方」や「新しい魅力的なイベント」等について、実行委員会や関係団体、関係各課等と検討・協議を行うことを期待するとともに、そこで得られた叢智が他の生涯学習の事業に参考となるように「熟議」されるものであるように期待したい。

(11) 「生涯学習施設の有効活用：町民交流センターの活用促進」について

避難所開設や新型コロナウイルスの影響などで、施設利用人数は目標値を大きく下回ったものの、昨年度と同様に、Facebook のアクセス数は順調に増加している（目標値より 27 ポイント上回る）。ここに、昨年度も指摘したところであるが、コロナ禍における「生涯学習施設の有効活用」に向けてのヒントとして、地域に密着した開かれたホールを目指した取組や坂町内外への情報発信という地道に取り組まれ、町民交流センターが坂町の生涯学習推進のシンボルとなるよう、その利用にかかる施策や取組に一層期待したい。

おわりに

以上、各項目に即して点検評価の結果に基づいて意見を述べた。最後に、報告書全般に関わって意見を述べ、今後期待したい点について指摘したい。

坂町における「教育委員会事務自己点検・評価」は充実した自己点検評価が継続されている。そのようななかでも、平成30年度の西日本豪雨災害や新型コロナウイルス感染防止の取組の困難さを踏まえ、坂町に住まう・憩う・働く人々の大切にしてきた価値に注目して優先順位をもって取り組まれてきていることに敬意を表したい。今後においても、点検評価の結果

が、町民における学校教育・生涯学習の充実に向けて、町民と「ともに」より一層の改革・改善につながるための工夫に引き続き尽力していただきたい。

そのため、第一に、成果指標（アウトカム）としての視点から評価に至ったエビデンス（証拠）に掲げる数値目標の設定について点検と精緻化を図っていただいているところであるが、これまでも指摘してきたように、量的に示された数値目標を補って、質的にどのように変容したのかを分析し、事業の目標に対して有効な施策であったのか、検証していくことを引き続き期待したい。第二に、教育委員会の事業実施にあたっては町の他部局の事業との関連性をもって展開できているかについて意識して取り組んできた点を活かして、引き続き、町民の学校教育・生涯学習の推進に寄与できる取組・方策の充実に努めていただきたい。その際には、それらの事業実施にあたって、町民を単なる「お客さん」に位置づけることなく、町民こそが「主人公」として「ともに」事業を実施していることとなっているかどうかを常に意識していただきたい。

最後に、説得力のある自己点検評価報告書が、坂町住民の共有財産となるよう、これまで同様に、次の点には引き続き期待したい。第一に、坂町独自の特色をもつ事業施策について点検評価して町民に積極的に情報発信し、町民が主人公となる事業施策であることをアピールして欲しい。第二に、学校教育の充実にについて、設置者としての事業展開が学校現場による真摯な取組を通じて実現できることを踏まえ、設置者の視点を明確にした具体的な支援策をもって学校現場の支援の充実により一層努めて欲しい。

坂町教育委員会事務局には、そのような期待に答えていただき、首長部局に対して財政的な裏付けを確保して、教育委員会の事業展開におけるP D C Aサイクルを実働させ、学校教育・生涯学習の主人公である学習者の支援に、また、その学びを支える教員をはじめとする指導・支援者の支援に、今後も引き続き努められることを一層期待したい。

【評価委員】

広島大学 名誉教授 林 孝

教育委員会の活動状況及び活動概要

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会委員

教育委員は、町長が議会の同意を得て任命した教育長及び4名の委員により構成する。
令和4年3月31日現在の教育委員は、次のとおりである。

職名	氏名	性別	任期
教育長	太田 耕 樹	男	令和2年4月1日～令和5年3月31日
教育長職務代理者	松村 英 勝	男	令和元年12月17日～令和5年12月16日
委員	埜本 友 造	男	令和2年12月5日～令和6年12月4日
委員	平沖 純 子	女	平成30年4月1日～令和4年3月31日
委員	向井 智 恵	女	平成31年4月1日～令和5年3月31日

(2) 教育委員会会議の開催状況 定例会 13回

(3) 教育委員会会議での審議状況 議決の状況（令和3年度） 18件

番号	議案名	可決日	備考
8	令和3年度教職員研修の方針について	4月20日	
9	坂町社会教育委員の委嘱について	4月20日	
10	令和4年度使用中学校用教科用図書の採択基本方針について	5月7日	
11	令和2年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について	6月22日	
12	令和4年度使用中学校用教科用図書採択について	8月17日	
13	令和4年度使用特別支援学級用教科用図書採択について	8月17日	
1	坂町立坂公民館管理運営規則の一部改正について	1月18日	規 則
2	横浜ふれあいセンター管理運営規則の一部改正について	1月18日	規 則
3	小屋浦ふれあいセンター管理運営規則の一部改正について	1月18日	規 則
4	コミュニティホールさか管理運営規則の一部改正について	1月18日	規 則
5	坂町立学校施設使用に関する規則の一部改正について	1月18日	規 則
6	坂町B&G海洋センター条例施行規則の一部改正について	1月18日	規 則
7	町内体育施設使用運営要綱の一部改正について	1月18日	
8	令和4年度坂町教育行政方針について	2月15日	
9	坂町教育委員会教育長の辞職の同意について	3月15日	
10	令和4年度坂町公立学校教職員人事異動について	3月15日	
11	坂町文化財保護委員の委嘱について	3月15日	

12	坂町スポーツ推進委員の嘱託について	3月15日	
----	-------------------	-------	--

(4) 議案以外の報告・協議状況

月 日	定例会における報告・協議内容
4月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度第1回広島県市長教育長会議について ○坂町教育委員会事務局事務分掌について ○令和2年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について
5月 7日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度使用中学校用教科用図書採択基本方針について
5月 25日	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県町教育長会Web会議について ○安芸郡教科書用図書採択地区協議会について ○令和2年度坂町教育委員会事務点検・評価報告書について
6月 16日	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県町教育長会Web会議について ○6月議会定例会について
7月 20日	<ul style="list-style-type: none"> ○中国地区市町村教育委員会研修大会（オンライン）について ○令和3年度坂町教育委員会経営計画・主要施策について ○議員全員協議会（7月5日）について
8月 17日	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県町教育長会について
9月 22日	<ul style="list-style-type: none"> ○町教育長会議について ○令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について ○9月議会定例会について
10月 19日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度安芸郡校長会連合会研修会について ○議員全員協議会（10月1日）について ○坂中学校コミュニティスクールについて ○タブレットの持ち帰りについて
11月 16日	<ul style="list-style-type: none"> ○広島県町教育長会研修会について ○「広島県公立学校教職員人事異動方針」について ○各小学校コミュニティスクールについて ○令和3年度坂町教育行政方針及び坂町教育委員会経営計画について ○『NHKのど自慢』について
12月 21日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和4年度坂町教育行政方針について ○校務支援システムについて ○12月議会定例会について
1月 18日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会について ○令和4年度坂町教育行政方針について
2月 15日	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年度市町村教育委員会オンライン協議会について ○人事異動について
3月 15日	<ul style="list-style-type: none"> ○3月議会定例会及び予算審査特別委員会について ○平沖教育委員の任命同意について

2 教育委員の活動概要

(1) 各種会議への出席

会 議 名	出席者	実施月日	開催地	備考
令和3年度第1回広島県市町教育長会議	教 育 長	4月15日	広島市	
令和3年度広島県町教育長会例会 (Web会議)	教 育 長	5月10日 6月21日 7月29日 9月21日 1月13日	北広島 町他	
安芸郡教育長会議	教 育 長	5月19日	熊野町	
第13回中国地区市町村教育委員会連合会 研修大会 (Web会議)	教 育 長	7月15日	坂 町	
令和3年度中国五県町村教育長会研究 大会 (Web会議)	教 育 長	8月19日	島根県	
令和3年度第2回広島県市町教育長会議 (Web会議)	教 育 長	8月27日	坂 町	
令和3年度第1回広島県女性教育委員 グループ総会 (Web会議)	女性 教育委員	10月25日	坂 町	
令和3年度第2回広島県西部教育事務所 管内教育長、部・課長等会議	教育長	10月29日	呉 市	
令和3年度広島県町教育長会研修会	教 育 長	11月5日	海田町	
令和3年度市町村教育委員会オンライン 協議会 (Web会議)	松村 教育委員 埜本 教育委員	11月18日	坂 町	
令和3年度臨時広島県市町教育長会議 (Web会議)	教 育 長	12月22日	坂 町	
令和3年度市町村教育委員会オンライン 協議会 (Web会議)	教 育 長	12月23日	坂 町	
令和3年度第3回広島県市町教育長会議 (Web会議)	教 育 長	2月2日	坂 町	
令和3年度市町村教育委員会オンライン 協議会 (Web会議)	教 育 長	2月10日	坂 町	
令和3年度第2回広島県女性教育委員 グループ総会 (Web会議)	女性 教育委員	2月22日	坂 町	

(2) 教育委員の学校等訪問

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため訪問しなかった。

(3) 教育委員の社会教育施設等訪問

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため訪問しなかった。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	道徳心の高揚
短期経営目標	「礼節」を基本とした教育の推進

1 具体的なねらい

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うとともに、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。

2 取組・方策

(1) 「礼節」を基本とした教育を推進

教職員と児童生徒間及び児童生徒相互の信頼関係を構築し、発達段階を踏まえた丁寧な指導を教育活動全体を通して粘り強く繰り返し実践する。

(2) 坂町道徳教育推進協議会の開催（3回／年）

本協議会で研究を深め、道徳的な課題を児童生徒一人一人が自分自身の問題と捉え、「考え、議論する道徳」への授業改善を図る。

学校・家庭・地域との連携・協力を大切にするとともに、「坂町礼節週間」「道徳参観日」を積極的に情報発信し、相互交流の場を設定する。

(3) 道徳教育推進教師を中心とした取組

道徳教育推進教師を中心とし、時と場に応じた挨拶や言葉遣いのできる「礼儀」、立場をわきまえ、よく考えて行動する「節度」を全ての教育活動で育成する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容：16・17頁参照 1「礼節」2「道徳」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校：93.1% ・中学校：98.4%	○肯定的な回答の割合 ・小学校：92.2%(-0.9) ・中学校：96.7%(-1.7)	A

※評価方法…A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○アンケートの調査結果では、小・中学校ともに目標値と同等の結果を得ることができた。小・中学校とも9割以上の肯定的な回答が近年維持されている。

○成果が維持されている要因として、「坂町道徳教育推進協議会」を中心とした「坂町礼節週間」への取組や「考え、議論する道徳」の授業改善を積極的に推進できていると考える。

○「坂町道徳教育推進協議会」を計画どおり3回実施できたが、新型コロナウイルスの影響で道徳参観日の実施ができず、道徳教育の取組を保護者や地域に発信することはできなかった。

○「礼節」を基本とした教育を推進するため、令和4年度以降も、坂町礼節週間や道徳参観日の開催、道徳ノート・学校通信等の取組を進める。1人1台のタブレットを活用した動画配信等、コロナ禍における参観日の開催方法について工夫し、各学校の取組等を保護者や地域に発信する。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	豊かな心の育成
短期経営目標	郷土愛の醸成・グローバル化教育の推進

1 具体的なねらい

郷土を愛し、進んで郷土の発展に努める態度を育成する。また、異なる文化や価値観を理解し、国際社会の平和や発展に貢献する態度を育む教育を推進します。

2 取組・方策

(1) 「地域とともにある学校づくり」の推進

地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」を推進する。また、地域行事や活動、文化等に興味をもち、それを大切にするを通して、郷土を愛する心の醸成を図る。

(2) 坂町外国語教育研修の開催

教職員の英語力・実践的指導力の向上を図るとともに、経験の異なる教員が互いに学び合う授業実践研修を充実させる。(3回/年)

「ミート・ザ・ワールド・イン・サカ(グローバル・キャンプ)」を開催し、英語で外国人と交流する体験活動の機会を提供することにより、英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成を図るとともに、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育成する。(1回/年)

(3) 外国語推進リーダー・外国語活動講師の配置

外国人外国語活動講師や日本人外国語活動講師、小学校専科教諭(外国語推進リーダー)、充実したスタッフを配置し、連携を密にしながら子供たちの英語による表現力の向上、英語を用いたコミュニケーション力を育む活動を充実させる。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容: 16・17頁参照 3「郷土愛・グローバル化」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 80.0% ・中学校: 88.9%	○肯定的な回答の割合 ・小: 73.2%(-6.8) ・中: 79.0%(-9.9)	B

※評価方法…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○肯定的な回答が小学校で6.8ポイント、中学校では9.9ポイント目標値を下回ったが、小・中学校ともに、7割以上の肯定的な回答を得ることができた。

○郷土愛については、新型コロナウイルスの影響で多くの地域行事等が中止されたが、総合的な学習の時間や防災教育等で郷土に係る学習を積み上げている。しかし、例年子供たちが楽しみにしている行事や活動など、やりたいことができない環境が続いているため、今後コロナ禍においても、郷土愛の醸成につなげることができるような行事の開催方法を学校と連携し、協議する。

○外国語推進リーダー等の専門的な知識・技能を有する講師を配置し、生きた英語を直接体験することで、子供たちの英語による表現力の向上や教職員の授業力の向上につながった。

○コロナ禍における授業の展開では、声を出して発音する学習や積極的なコミュニケーションによる体験活動等が制限され、授業展開が困難な状況であった。このような中、1人1台のタブレットを活用してペアに紹介動画を送信・相互評価を行う等工夫することができたので、令和4年度も継続していく。

○今後、ICTを効果的に活用した授業づくりを含め、授業の改善・工夫に努め、さらに郷土愛の醸成及びグローバル化教育の推進を図る。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	確かな学力の育成
短期経営目標	基礎的・基本的な知識・技能の定着

1 具体的なねらい

基礎・基本的な知識や技能の定着を図り、加えて学ぶ意欲や自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 坂町教育フォーラムの開催 (2回/年)
町内全教職員で坂町教育の方針や方向性を共有し、外部の有識者等を招聘した専門性の高い研修を実施することで、各学校の課題解決や坂町教育の研究を深める。

(2) 『育ちと学びをつなぐ』幼保小連携教育の推進事業(県)の充実
町内の小学校と保育園、こども園との連携を密に行い、円滑な接続から個に応じたきめ細かな指導に努め、低学年からの基礎的・基本的な内容を確実に身に付ける。

(3) 坂町標準学力調査の実施
町内の全児童生徒を対象に学力調査を実施し、その結果を分析するとともに一人一人の課題や取組方針等を明確にする。また、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導を行い、コロナ禍においても児童生徒の学習機会を保障する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①基礎学力の定着・向上 ○全国学力・学習状況調査 (全国平均値との比較) ・小学校：国語、算数 <<調査対象：小6>> ・中学校：国語、数学 <<調査対象：中3>>	①全国平均値 (実施年度数値) ・小学校 (国語、算数) ・中学校 (国語、数学)	①全国学力・学習状況調査 (全国平均値との比較) ・小6：国(+10.3)、算(+6.8) ・中3：国(+3.4)、数(+4.8)	A
②主体的な学びの充実 ○坂町学びのアンケート(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容：16・17頁参照 4「授業(学び)」に関する質問	②肯定的な回答の割合 ・小学校：90.2% ・中学校：96.4%	②肯定的な回答の割合 ・小学校：84.4%(-5.8) ・中学校：93.8%(-2.6)	B
③ICT教育の推進 ○坂町学びのアンケート(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容：16・17頁参照 7「情報教育(ICT)」に関する質問	③肯定的な回答の割合 ・小学校：65.1% ・中学校：76.8%	③肯定的な回答の割合 ・小学校：90.4%(+25.3) ・中学校：96.1%(+19.3)	A

※評価方法①…A：+5ポイント以上、B：平均値以上、C：平均値未満、D：-5ポイント以下

※評価方法②③…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○「全国学力・学習状況調査」では、全教科において全国平均値を上回ることができた。特に小学校国語においては、全国平均値を10.3ポイント上回った。坂町主催研修において、児童生徒一人一人の課題や取組方針等を分析し、積極的な授業改善及び個に応じたきめ細かな指導について協議を行った成果である。

○令和3年度では、小学校専科指導(理科)や学校間連携(英語、算数)、指導方法工夫改善(算数)に係る加配を配置し、積極的な授業改善や課題等の明確化及び課題解決を図るとともに、取組の成果等を町内全校で共有し、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができた。

○コロナ禍においても、ICTを活用し基礎学力の定着・向上を図ることができた。しかし、学ぶ意欲においては、低下傾向である。令和4年度は、坂町小中連携研修を充実させ、主体的に学ぶ児童生徒を育成したい。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	生徒指導体制の確立
短期経営目標	積極的生徒指導の充実

1 具体的なねらい

一人一人の児童生徒の健全な成長を促し、児童生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力を育成する。

2 取組・方策

(1) 坂町生徒指導連絡協議会（7回／年）
各小中学校の生徒指導主事を対象に、理論研修、授業観察、実態交流等を行い、生徒指導方針（基準の明確化）の共通理解を図り、指導力の向上及び生徒指導体制の機能化を目指す。

(2) 「いじめアンケート」の実施（3回／年〔6・11・2月〕）
児童生徒及び保護者を対象にアンケートを実施するとともに、アンケート結果から個別面談を丁寧に行い、いじめの早期発見、早期対応、真の解決に努める。
※いじめ未解決件数については、参考として示す。

(3) 教育相談体制の確立
教職員に加えて、心理の専門家であるスクールカウンセラーや福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカーを活用し、児童生徒の様々な情報の整理統合やアセスメント、支援計画等を早期に行い、教職員が組織的に支援できる体制を確立する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①規範意識・自己肯定感の醸成 ○坂町学びのアンケート調査(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容：16・17頁参照 5「学校生活」に関する質問	①肯定的な回答の割合 ・小学校：94.6% ・中学校：98.1%	①肯定的な回答の割合 ・小：89.7%(-4.9) ・中：95.0%(-3.1)	B
②不登校の児童生徒数の割合 (令和2年度との全国平均値比較)	②不登校の割合 (100人あたりの不登校児童生徒数) ・小学校：全国1.00人 ・中学校：全国4.09人	②不登校の割合 ・小：1.63人(+0.63) ・中：4.17人(+0.08)	C

※評価方法① … A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

※評価方法② … A:-1.5ポイント以下、B:-1.5ポイント以上0ポイント未満、C:0ポイント以上+2ポイント未満、D:+2ポイント以上

4 成果と課題・改善策

○年3回実施した「いじめアンケート」の結果から個別面談や聞き取り等を丁寧に行い、早期に発見し対応することや、「チーム学校」としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し教育相談体制の確立を図ることが、いじめの未解決件数0件につながったと考えられる。

○規範意識や自己肯定感に関するアンケート結果では、肯定的な回答が小学校は89.7ポイント、中学校は95.2ポイントと高い数値を維持している。

○令和3年度の不登校児童生徒数の割合は、令和2年度の全国平均値より、小学校で0.63ポイント、中学校で0.08ポイント上回った。主な要因としては、新型コロナウイルスの影響で学校行事等が中止となり、学校生活に対する意欲の低下や感染等に対する不安などが考えられる。

○今後の感染状況を踏まえ、学習内容や活動内容を工夫しながら可能な限り授業や部活動、各種行事等の教育活動を継続し、児童生徒の健やかな学びを保障する。

○引き続き、学級担任や養護教諭を中心に児童生徒の心身の状況、人間関係、身なり、言動等を丁寧に観察するとともに、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用する。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	安全教育の推進
短期経営目標	防災教育の充実

1 具体的なねらい

自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、進んで安心・安全な社会づくりに参加し貢献できるような資質や能力を養う。

2 取組・方策

(1) 生活科・総合的な学習の時間を中心とした教育活動の充実
平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育を推進し、生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するとともに、復興に向けて心身ともにたくましく生き抜く力を育む防災教育を推進する。

(2) 「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」(県)の充実
自他の命を大切にし、思いやる力を育むとともに、防災教育における「自助」の力と「共助」の精神を育み、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

(3) 危機管理(防災)マニュアルの策定
防災に係る危機管理マニュアルを毎年改善し、全教職員で災害等に対する意識を高めるとともに、有事における体制整備の構築、推進に努める。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
○坂町学びのアンケート調査(2年目) (令和2年度との平均値比較) ※アンケート内容: 16・17頁参照 6「防災教育」に関する質問	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 91.5% ・中学校: 97.4%	○肯定的な回答の割合 ・小学校: 88.0% (-3.5) ・中学校: 96.5% (-0.9)	B

※評価方法 …A:目標値と同等、B:-10ポイント未満、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

○平成30年豪雨災害の経験や教訓を生かした防災教育の実施やハザードマップの作成、マイタイムラインを活用した取組により、約9割の児童生徒が肯定的な回答をした。

○新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業の影響で、生活科や総合的な学習の時間の授業時数の削減、職業体験学習等の体験活動を中止せざるを得なかったが、学校生活における感染予防対策等の取組が日常的な学びとなり、自他の命を大切にし、思いやる力を育むなどの育成につながった。

○令和4年度は、県指定事業の「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」を活用し、生活科・総合的な学習の時間を軸とした取組を推進するとともに、研究推進リーダー教員を中心とした防災教育における単元開発を行い、自他の命を守り抜くために必要な判断力・行動力を育成する。

坂町学びのアンケート集計（小学校）

実施日：令和4年2月

実施校：坂小学校・横浜小学校・小屋浦小学校

実施人数：130人

1「礼節」に関する質問	●肯定	90.9%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	9.1%	人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。			120	92.3%	10	7.7%
(2) 心のもったあいさつをしている。			121	93.1%	9	6.9%
(3) 物を大切にし、整理整頓することを心がけている。			109	83.8%	21	16.2%
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。			117	90%	12	9.2%
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。			123	94.6%	7	5.4%

2「道徳」に関する質問	●肯定	93.4%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	6.6%	人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。			120	92.3%	10	7.7%
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。			118	90.8%	12	9.2%
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。			123	94.6%	7	5.4%
(4) 人の気持ちが分かる人間になりたい。			129	99.2%	1	0.8%
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。			117	90%	13	10%

3「郷土愛・グローバル」に関する質問	●肯定	73.2%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	26.8%	人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。			94	72.3%	36	27.7%
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。			101	77.7%	29	22.3%
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。			98	75.4%	32	24.6%
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。			106	81.5%	24	18.5%
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。			77	59.2%	53	40.8%

4「授業（学び）」に関する質問	●肯定	84.4%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	15.6%	人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。			113	86.9%	16	12.3%
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。			113	86.9%	17	13.1%
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。			97	74.6%	33	25.4%
(4) 落ち着いて勉強することができている。			116	89.2%	14	10.8%
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。			109	83.8%	21	16.2%

5「学校生活」に関する質問	●肯定	89.7%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	10.3%	人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。			117	90%	13	10%
(2) 今の学級の一員でよかった。			123	94.6%	7	5.4%
(3) 自分には、よいところがある。			99	76.2%	31	23.8%
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。			122	93.8%	8	6.2%
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。			122	93.8%	8	6.2%

6「防災教育」に関する質問	●肯定	88.0%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	12.0%	人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。			115	88.5%	15	11.5%
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。			121	93.1%	9	6.9%
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。			111	85.4%	19	14.6%
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。			115	88.5%	15	11.5%
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。			110	84.6%	20	15.4%

7「情報教育（ICT）」に関する質問	●肯定	90.4%	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	9.6%	人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。			121	93.1%	9	6.9%
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。			121	93.1%	9	6.9%
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。			124	95.4%	5	3.8%
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。			95	73.1%	33	25.4%
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。			124	95.4%	6	4.6%

坂町学びのアンケート集計（中学校）

実施日：令和4年2月

実施校：坂中学校

実施人数： 104 人

1 「礼節」に関する質問	●肯定	96.7 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	3.3 %	人数	割合	人数	割合
(1) 約束の時間や自分で決めた時間を守ろうとしている。			104	100 %		
(2) 心のもったあいさつをしている。			101	97.1 %	3	2.9 %
(3) 物を大切にし、整理整頓をすることを心がけている。			98	94.1 %	6	5.9 %
(4) 学校への感謝の気持ちをもって、清掃することを心がけている。			99	95.2 %	5	4.8 %
(5) 相手に失礼のない言動を心がけている。			101	97.1 %	3	2.9 %

2 「道徳」に関する質問	●肯定	96.7 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	3.3 %	人数	割合	人数	割合
(1) 道徳の勉強は、ためになると思う。			99	95.2 %	5	4.8 %
(2) 道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞きながら、自分のことについて考えている。			99	95.2 %	5	4.8 %
(3) いじめは、どんな理由があっても許されない。			101	97.1 %	3	2.9 %
(4) 人の気持ちが分かる人間になりたい。			103	99.1 %	1	0.9 %
(5) 道徳で勉強したことを自分の生活にいかそうとしている。			101	97.1 %	3	2.9 %

3 「郷土愛・グローバル」に関する質問	●肯定	79.0 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	21.0 %	人数	割合	人数	割合
(1) 自分の地域の行事に参加している。			85	81.7 %	19	18.3 %
(2) 地域や社会をよくするために、何をすべきかを考えることがある。			85	81.7 %	19	18.3 %
(3) 外国人と友達になり、外国のことについてもっと知りたい。			81	77.9 %	23	22.1 %
(4) 日本や坂町（地域）のことを外国人にもっと知ってもらいたい。			85	81.7 %	19	18.3 %
(5) 将来、国際社会で活躍したいと考えることがある。			75	72.1 %	29	27.9 %

4 「授業（学び）」に関する質問	●肯定	93.8 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	6.2 %	人数	割合	人数	割合
(1) 友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている。			99	95.2 %	5	4.8 %
(2) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。			100	96.2 %	4	3.8 %
(3) 自分で課題を立てて、学習に取り組んでいる。			96	92.3 %	8	7.7 %
(4) 落ち着いて勉強することができている。			98	94.2 %	6	5.8 %
(5) 失敗しても学ぶことはおもしろい。			95	91.3 %	9	8.7 %

5 「学校生活」に関する質問	●肯定	95.0 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	5.0 %	人数	割合	人数	割合
(1) 学校での生活は楽しい。			99	95.2 %	5	4.8 %
(2) 今の学級の一員でよかった。			101	97.1 %	3	2.9 %
(3) 自分には、よいところがある。			91	94.1 %	13	5.9 %
(4) 学校のきまり（規則）や社会でのマナーを守ろうと意識している。			102	98.1 %	2	1.9 %
(5) 人が困っているときは、進んで助けようとしている。			101	97.1 %	3	2.9 %

6 「防災教育」に関する質問	●肯定	96.5 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	3.5 %	人数	割合	人数	割合
(1) 災害が起きた時に、安全な場所（避難所）がどこかを知っている。			101	97.1 %	3	2.9 %
(2) 地域で起こりやすい災害の危険性について理解している。			102	98.1 %	2	1.9 %
(3) 危険を予測して、自らの安全を確保したり、避難行動をとることができると思う。			98	94.2 %	6	5.8 %
(4) 他の人や地域の安全のために役立ちたいと考えている。			99	95.2 %	5	4.8 %
(5) 自分の住んでいる地域で災害が起きたら、ボランティア活動に進んで参加したい。			102	98.1 %	2	1.9 %

7 「情報教育（ICT）」に関する質問	●肯定	96.1 %	肯定的回答		否定的回答	
	◆否定	3.9 %	人数	割合	人数	割合
(1) 学校で、ほぼ毎日パソコンを使っている。			99	95.2 %	5	4.8 %
(2) パソコンを使った学習は、分かりやすくより内容が深まる。			98	94.2 %	6	5.8 %
(3) 文字入力やインターネットでの検索など、基本的なパソコンの操作ができる。			104	100 %		
(4) 情報をコンピュータを使ってグラフにしたり、プレゼン発表したりすることができる。			95	91.3 %	8	7.7 %
(5) ネットワーク上のルールやマナー、法を守ることの意味や責任を理解している。			102	98.1 %	1	0.9 %

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	地域文化の保存、継承
短期経営目標	坂町の歴史や文化に対する理解と関心の醸成

1 具体的なねらい

町民の郷土に対する歴史的理解を深めるとともに、後世へ文化を継承し、町民の文化意識の向上と町勢発展に努める。

2 取組・方策

(1) 主催行事等の充実とアンケート調査

主催行事等において、坂町の文化・歴史に対する関心が高まる内容を取り入れるとともに、事後アンケート調査を実施する。

- 坂町を知ろう※中止
- 坂町文化祭（12月12日）
- ようよう坂町ウォーキング（12月19日）
- 共演 神楽の舞（12月19日）
- 坂町悠々健康ウォーキング※中止

(2) 小中学生と自主グループの交流※中止

町内で文化的な活動を行う自主グループと協力し、小中学生を対象に後世へ文化の継承を目的とした体験会を定期的で開催し、若い世代に文化と接する機会を提供する。また、コロナ禍におけるイベントの在り方として、Web配信等の新たな取組で、交流の範囲を広げるとともに、参加者の増加を図る。

(3) 案内看板の設置

今年度終了の「町内史跡案内看板事業(H27)」で設置した看板を今後のイベントやウォーキング等での活用方法を検討する。また、設置場所について、ホームページ等を利用して広く紹介する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①関心・意欲に関するアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・80%	①肯定的な回答の割合 ・91.9%(+11.9)	A
②行事に対する満足度調査 (過去2年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・80%	②肯定的な回答の割合 ・84.5%(+4.5)	B

※評価方法①②…「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○開催できたイベント終了時のアンケート調査結果では、関心・意欲に関する調査が11.9ポイント、満足度の調査が4.5ポイントといずれも目標値を上回った。

○坂町史の活用については、「ようよう坂町ウォーキング」のコースに坂町史に掲載されている史跡を取り入れ、設置した案内看板を元に史跡の説明を行った。参加者は、興味深く熱心に耳を傾けていた。案内看板の設置は、全23ヶ所に予定通り設置を完了したので、令和4年度はホームページ等、Webで紹介していく。また、まだ回っていない史跡案内看板が多数あるため、町史に係る関心を高めていくように努めていくと共に、継続してウォーキングイベントのコースに取り入れていく。

○小中学生と自主グループとの交流は、感染拡大防止のため実現できなかった。今後、Webでの開催や、対面で感染予防対策を徹底することでの開催に向けて取り組んでいく。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習環境、生涯学習推進体制の充実
短期経営目標	図書館サービスの向上

1 具体的なねらい

町民に必要とされる図書館を目指し、ニーズと時代の変化に対応しながら、町民の自主的な学習・文化・余暇活動を支援する。

2 取組・方策

- (1) イベント等啓発事業の充実
町立図書館と小屋浦ふれあいセンターにおいてボランティアによる読み聞かせ、職場(図書サービス)体験、ミニ絵本づくり等を行う「図書館子どもまつり」を開催し、子供と大人が読書の楽しさを知るきっかけを作り、読書体験を深めるような機会を提供する。
- (2) 情報発信の充実
「図書館だより」を作成し、定期的に配布する。また、様々な世代に幅広い情報を提供するため、SNS等を効果的に活用した情報を発信するとともに、社会状況に応じた新たな取組の創出及び工夫・改善に努める。
- (3) 関係機関との連携・協働
保険健康課主管である乳児健診等を実施する際には健診施設に移動図書館を設置するサービスを実施する等、関係機関と連携し読書活動を推進する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値 (令和3年度)	実績値	評価
①図書等貸出冊数	① 46,672 冊	① 41,774 冊 (-11ポイント)	D
②年間一人当たりの貸出冊数	② 3.96 冊/年	② 3.24 冊/年 (-19ポイント)	D

目標値：「日本図書館協会調査(全国市町村)」の前年度数値比較

※評価方法①②…A:+5ポイント以上、B:+5ポイント以下・-5ポイントを超える、C:-5ポイント以下・-10ポイントを超える、D:-10ポイント以下

4 成果と課題・改善策

- 断続的な新型コロナウイルス感染症拡大に伴う利用制限に伴い、短時間の開館で貸出のみ実施した日が多かった。感染防止対策を講じたものの貸出冊数は伸びず評価としてはD判定となった。今後は、新刊図書の早期購入などにより、貸出冊数の増加に取り組む。
- 「図書館子どもまつり」や関係機関との連携事業である「はじめて絵本事業」等、様々な事業が中止となり、計画していたような読書活動の推進を図ることができなかった。また、平成30年西日本豪雨災害以降、入館者数が激減している状況に加えコロナ禍による自粛ムードで改善が見込めない状況にある。
- 新型コロナウイルス感染症感染防止対策として一部の利用制限を取り入れつつ、短い滞在時間ではあっても図書等の貸出しができることを広く町民に広報し、利用者の増加に努め、充実した読書生活の一助となるよう努めた。
- 令和2年度から導入したネット予約サービスの利用が月平均100件を超えており、継続して「図書館だより」「広報さか」に掲載し、新たに公式LINEへの情報配信を行い、ネット利用が可能な方へより一層のアプローチをしていく。ただし、ネット利用が難しい方への情報提供方法について検討していく必要がある。
- 転入時・出産時等の手続きの際に、役場窓口で「図書館のご利用のすすめ」等を配布し、町民にとって有用で身近な図書館をアピールして新規の利用者の獲得に努めていく。
- 図書に関する講座等の新規の企画が出来ていないことから、住民のニーズを把握するとともに、課題解決に努めていく。
- 「読み聞かせ講座」と「折り紙体験」については開催場所の変更、十分な換気といったコロナ対策を取りつつ再開した。
- 令和3年度は実施できなかった「図書館子どもまつり」は利用制限の範囲内での参加予約制を導入する等し、可能な限り開催できるような企画をしていく。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	生涯スポーツの推進
短期経営目標	生涯スポーツ社会の実現

1 具体的なねらい

町民誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指す。

2 取組・方策

<p>(1) 各種教室の充実とアンケート調査</p> <p>各種教室でスポーツへの関心・意欲、健康増進への意識が高まるよう内容を工夫・改善し、事後アンケート調査を実施する。</p> <p>○親子ふれあい体操教室※10/28～1/6の間で8回実施 1/6以降感染拡大のため8回中止</p> <p>○親子ふれあい水泳教室※7/6.13.15.16 5回中4回実施 7/9大雨警報により中止</p> <p>○小学生水泳教室（1年、2・3年生）※マイクロバスでの送迎が密になるため中止</p> <p>○町内体育大会※中止</p> <p>○広島ベイマラソン大会等※中止</p> <p>(2) 各種教室・大会等の情報発信</p> <p>坂町広報誌やホームページへの掲載及び関係機関等との連携を図り、町内外へ積極的に情報発信します。</p> <p>○幼児・小学生を対象とした各種教室</p> <p>○町内体育大会、広島ベイマラソン大会等</p> <p>(3) 軽スポーツの普及</p> <p>スポーツ推進委員へカローリング等の軽スポーツの普及活動の協力要請を行い、軽スポーツの普及に努めます。</p>

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
① 各種事業のアンケート調査 (過去3年間の平均値比較)	①肯定的な回答の割合 ・90%	①肯定的な回答の割合 ・100%	A
② 各種大会の満足度調査 (過去3年間の平均値比較)	②肯定的な回答の割合 ・90%	②肯定的な回答の割合 ・100%	A

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

4 成果と課題・改善策

<p>○各種行事が中止となる中、「親子ふれあい水泳教室」については、参加者が限定的かつ少人数であったこともあり、徹底した感染症予防対策や町独自の施設利用の制限を設定するなどを実施して、無事開催することができた。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響により、開館日が年間の約半数となったが、今後は、コロナ禍においてスポーツに親しむことができる機会の提供について検討していく。</p> <p>○各種教室・大会等の情報発信では、「広報さか」を通じて町民のスポーツ活動に対する意識の啓発・参加促進に努めたが、SNS等を活用した発信が不十分であった。令和4年度は、ホームページや公式LINE等により、スポーツイベントの開催案内を掲載するなど、積極的な情報発信に努めていく。</p> <p>○軽スポーツの普及のため、スポーツ推進委員によるスナックゴルフの研修会を行った。また、地域に出向いてのカローリングの研修会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。令和4年度もスポーツ推進委員での研修会を重ねて軽スポーツの普及に努めていく。</p>
--

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	ウォーキングの推進
短期経営目標	「坂町悠々健康ウォーキング大会」の充実

1 具体的なねらい

ウォーキングを通じて健康でたくましい「こころ」と「からだ」をつくり、悠々とした心豊かな生活や郷土愛の醸成・地域の活性化を目指す。

2 取組・方策

(1) 「坂町悠々健康ウォーキング大会」の情報発信

坂町広報誌やホームページ等への掲載及び関係機関等との連携を図り、町内外へ積極的に情報発信する。また、小中学校や住民協へ依頼し、大会案内を各世帯へ配布する。

さらに、前回大会の参加者及びふるさと納税者には、早めに個別で大会案内を送付する。

(2) 大会運営の工夫・改善

これまでの大会の反省点等を改善し、大会の更なる充実に努める。また、コロナ禍で開催する場合は、参加人数の制限、分散スタート等について、実行委員会・関係団体、他課等と協議を行い感染防止対策に万全を尽くす。

(3) 活気とにぎわいの取組

実行委員会・関係団体、他課等との連携を密に行い、大会内容の充実を図る。

○各種測定やカキ雑炊の給食は、新型コロナウイルスの感染リスクが排除できない場合、中止も含めて協議する。

○食の展示や野菜の摂取促進等の指導については、食生活改善推進協議会の意見を踏まえ、感染症の状況に応じて柔軟に対応する。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値（令和元年度）	実績値	評価
「坂町悠々健康ウォーキング大会」参加人数	1,200人	新型コロナウイルスの影響で中止	—
満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	80%	新型コロナウイルスの影響で中止	—

4 成果と課題・改善策

○当初は開催する予定であったが、決定時期に新型コロナウイルスの新しい変異株（後のオミクロン株）が確認されたため、実行委員に開催の可否についてアンケートを実施した。その結果、「規模を縮小して開催した方が良い」「人数制限をして開催すればいいのではないか」等の意見もいただいたが、最終的には「オミクロン株がどのような物か分からない状況で開催するのはリスクが高い」との意見が多数を占めたため、今年度の開催も見送ることとなった。昨年の改善策としていた各種測定やカキ雑炊等の飲食物の提供は、今後、新型コロナウイルス感染の状況が劇的に改善しない限りは、難しいとの意見もいただいている。

○今回で3回連続の中止となっており、今後、ウォーキングを通じて健康でたくましい「こころ」と「からだ」をつくるため、どのようなことができるのか等を検討していく。

令和3年度 点検評価票

中期経営目標	生涯学習施設の有効活用
短期経営目標	町民交流センターの活用促進

1 具体的なねらい

町民に親しまれ、スポーツ・文化活動の交流拠点として広く活用されるよう、関係機関と連携・協力し、利用促進に努める。

2 取組・方策

- (1) 各種（主催）イベントの開催
 目的を明確にし、町民の元気と意欲を高め、豊かな生活を送ることができる各種イベントを開催する。
 ○ワールドシップオーケストラコンサート（10月24日）
 ○共演 神楽の舞（12月19日）
 ○坂町平和音楽祭（1月） ※中止
 ○NHKのど自慢（2月6日） ※中止
 ○その他（ピアノ試弾会、落語公演、映画上映会）
- (2) 積極的な情報発信
 ホームページや坂広報誌等への掲載や関係機関等と連携し、町内外への情報発信に努め、利用が見込まれる企業、学校関係のリストアップ行い、チラシやDMを配布するなどの利用促進を図った。また、既存のFacebookに加え、新たにInstagramを開設し、更なる利用促進に努めた。
- (3) 地域に密着・開かれたホール運営
 誰もが気軽に利用できる施設運営に努め、来館者へのアンケート調査を実施し、意見を反映させた。
 ○交流スペースの開放、明るいロビー、音楽やDVDの常時放送などの工夫をした。

3 評価指標・目標値・実績値・評価

評価指標	目標値	実績値	評価
①施設利用人数（過去3年間の平均値比較）	①54,766人	①33,272人（-39.0ポイント）	D
②Facebookアクセス数（過去3年間の平均値比較）	②3,435件	②4,354件（+27.0ポイント）	A
③満足度アンケート（過去3年間の平均値比較）	③78.2%	③77.5%（-0.7ポイント）	B

※評価方法①②…A:目標値以上、B:-10ポイントを超える、C:-10ポイント以下・-20ポイントを超える、D:-20ポイント以下

※評価方法③ … 「基準評価」

4 成果と課題・改善策

○施設利用人数は、目標値より39.0ポイント下回ったことによりD評価となった。主な要因は、令和2年度に引き続き大雨等による避難所開設や、新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止等、各団体の活動自粛を余儀なくされ、当初300日の開館予定日数が150日しか開館できなかったことであるが、コロナ禍でも開催することができたイベントもあり、次年度においても新型コロナウイルスに係る環境の変化や国・県の動向を注視し、行事やイベント開催について計画していくと共に町民が何を求めているかを考え、的確に把握していきたい。

○Facebookのアクセス数は順調に増加し、目標値より27ポイント上回った。コロナ禍においても継続的にSNS発信を行ったことが主な要因である。また、instagramの開設に伴い、若者世代へ当ホールの周知を図ることも期待できるので、今後もイベント情報やトピックス等を適宜アップするとともに、アクセス数の増加を図る。

○地域に密着・開かれたホール運営については、新型コロナウイルスの影響で12月開催の共演「神楽の舞」のみアンケート調査を実施することができ、77.5%の方から満足であるとの回答を得た。今後の事業開催を検証する上でも重要であることから、イベント開催時以外でも随時実施し、施設利用者の声に直接耳を傾けることで誰もが気軽に利用できる施設運営に努める。